

管内概況



◇管内概況◇

■ 市勢

小山市は、栃木県南部に位置し、東は真岡市・茨城県筑西市及び結城市、西に栃木市、南に野木町・茨城県古河市、北は下野市にそれぞれ接し、地形はほとんど起伏がなく、その中央を北から南へ思川が流れています。

市街地の周辺には農地や平地林の田園環境が広がっており、コウノトリが定着・繁殖したラムサール条約湿地「渡良瀬遊水地」をはじめとする豊かな自然環境と数多くの歴史的・文化的財産を有し、農業・商業・工業のバランスがとれたまちとして発展しています。

鉄道は、南北のJR宇都宮線と東北新幹線を軸に、東からJR水戸線、西からJR両毛線が小山駅で結節し、道路は国道4号と新4号国道、国道50号の広域幹線道路が市内を南北、東西に貫いており、交通の要衝となっています。

本市の中心部約203.1ヘクタールは、準防火地域の指定を受け、防火体制の強化が図られています。

■ 消防

● 消防の構成

小山市消防は、常備消防の消防本部職員217人と非常備消防の消防団員747人で構成され、それぞれ消防活動上有効に消防署、分署、分遣所及び消防団を配備し、消防防災活動を行っています。

● 消防事務の受託

昭和60年4月、野木町から地方自治法の規定に基づき消防事務の委託を受け火災や事故・地震などの災害や有事への備え等の消防事務を実施しています。

● 消防ポンプ車と装備等

消防本部及び消防署には、水槽付消防ポンプ自動車を始め、化学消防ポンプ自動車・はしご付消防ポンプ自動車等16種類45台と人命救助に必要な救助艇などを配備しています。また、消防団には団本部車（広報車）及び普通消防ポンプ自動車等40台を配置し災害や事故に備えています。

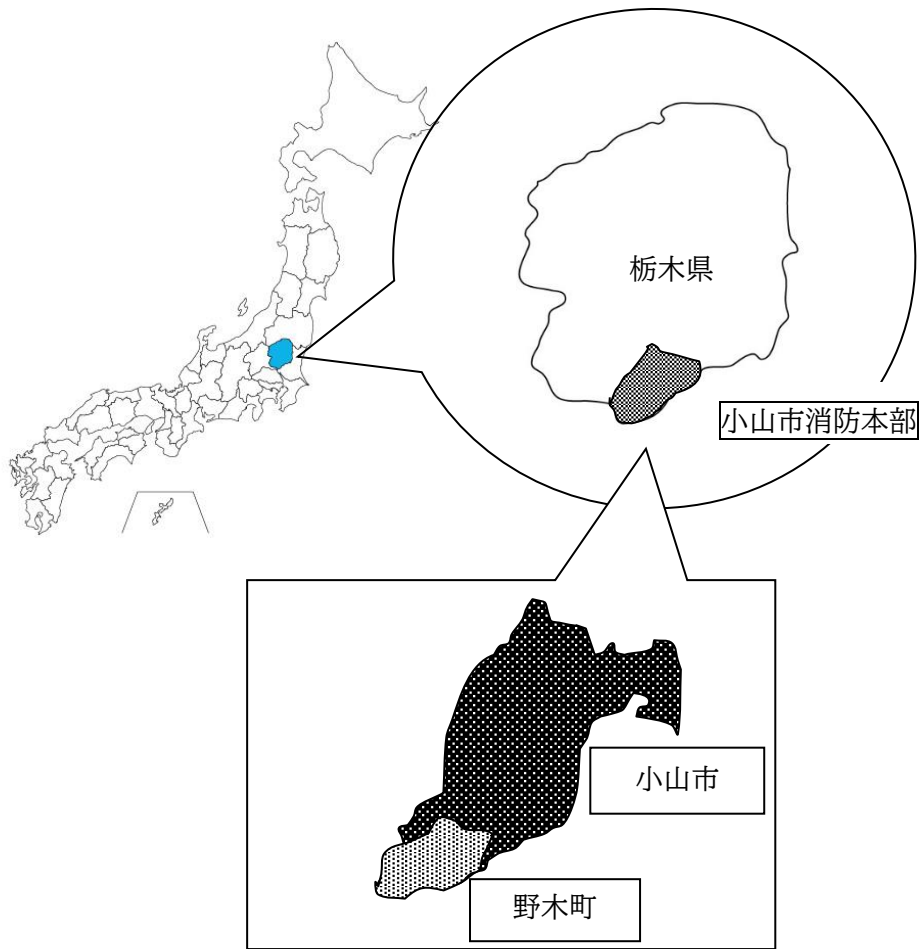
● 消防用水利

消防用水利は、消火活動上欠くことのできない重要な施設です。管内には消防活動上有効に使用できる川、沼等の自然水利に恵まれておりません。従って、人工的に造った防火水槽や消火栓等が消防活動のための重要な水利となっています。

このように消防装備の充実整備を図っていますが、建物の増加に加え、事故が発生すると甚大な被害を及ぼす危険物・ガス施設等の生活圏への建築、また異常気象による自然災害や交通事情の変化などによる各種災害発生の危険性が増加しています。

これらの災害に充分対応できる消防体制の整備強化を目指します。

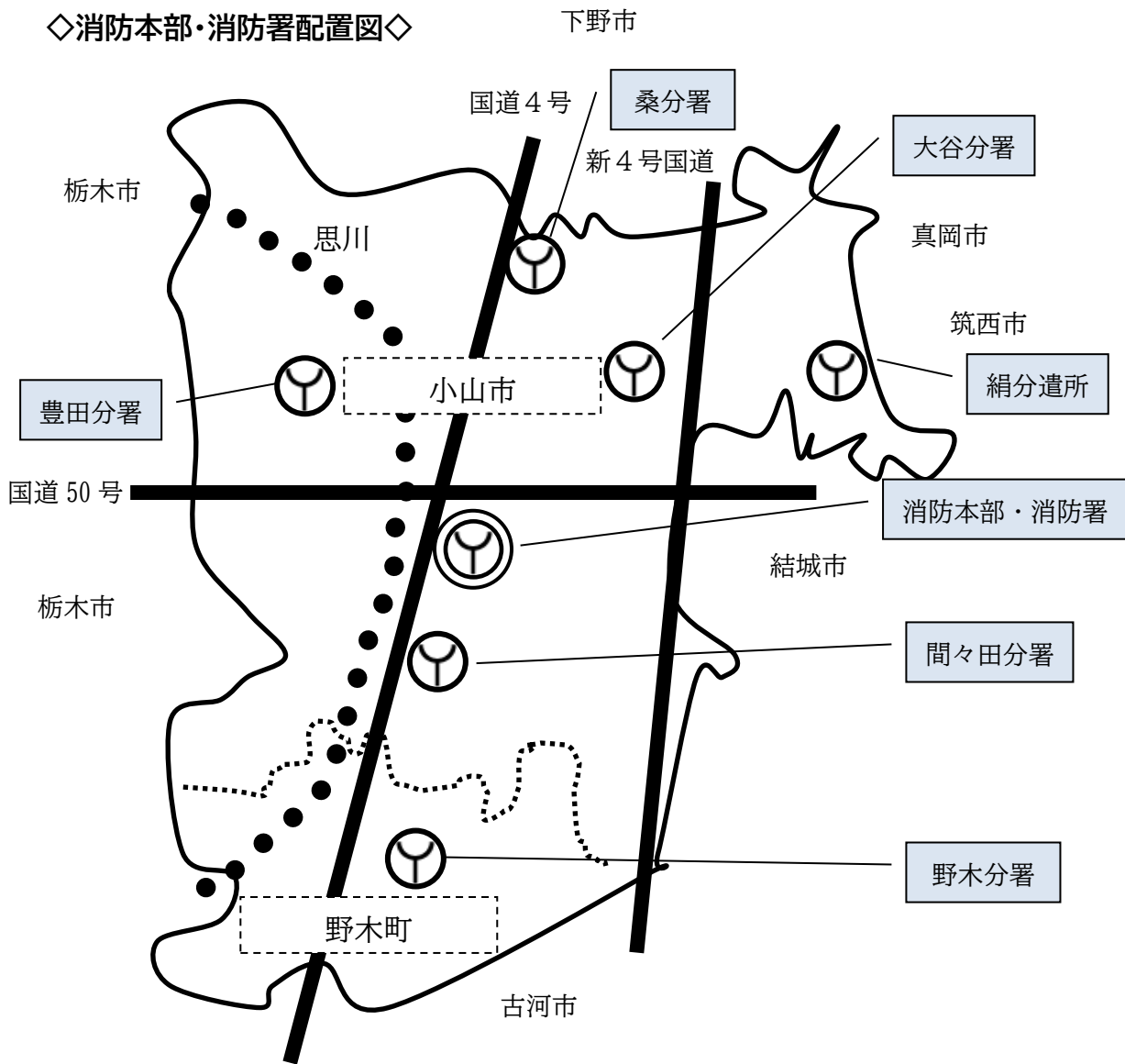
◇小山市・野木町位置図及び概要◇



(令和5年4月1日現在)

	位置	面積 (km ²)	広ぼう (km)	海拔 (m)	人口 (人)	世帯数 (世帯)
小山市	東経 139° 48'	171.75	東西 20.25	最高 48.50	166,204	71,531
	北緯 36° 18'		南北 21.40	最低 14.00		
野木町	東経 139° 45'	30.27	東西 9.40	野木町役場 24.00	25,099	11,002
	北緯 36° 14'		南北 6.80			
合計		202.02			191,303	82,533

◇消防本部・消防署配置図◇



◇消防本部・消防署庁舎所在地◇

区分 署別	所在地	庁舎			敷地面積
		構造	延べ面積	建築年月	
消防本部・消防署	小山市神鳥谷 1700-2	S造3階建	3,743.77 m ²	平 25・5	6,066.95 m ²
大谷分署	小山市犬塚 3-24-4	RC造2階建	671.29 m ²	昭 58・11	1,507.72 m ²
間々田分署	小山市乙女 3-2-24	RC造2階建	669.62 m ²	昭 54・5	1,119.67 m ²
野木分署	野木町丸林 149	RC造2階建	682.12 m ²	昭 60・4	2,000.00 m ²
豊田分署	小山市立木 711-1	RC造2階建	580.21 m ²	昭 63・5	2,000.00 m ²
桑分署	小山市羽川 139-2	RC造2階建	502.00 m ²	昭 61・2	1,039.53 m ²
絹分遣所	小山市福良 1105-1	S造平屋建	643.02 m ²	平 28・1	2,563.30 m ²

◇小山市消防本部の歩み◇

年 月	記 事
昭和20年 2月	・ 小山町警防団常備消防部発足する。(部員9名) 仮庁舎を小山町小山 2,006番地(上町公会堂)に設置、消防ポンプ車2台を配備し、消防部長に寺内金次郎氏就任する。
4月	・ 小山町小山 2,245番地に庁舎及び望楼完成、移転する。(部員12名に増強)
23年 3月	・ 消防組織法が施行、自治体消防が発足する。(警察の指揮下より独立)
6月	・ 小山町消防団発足、初代団長 寺内 金次郎氏就任する。
8月	・ 小山町消防本部発足、初代消防長 下河辺 弘毅氏就任する。
25年 12月	・ 水そう付消防ポンプ自動車(イヌゞ 50年型、積載水 2,200ℓ)購入配備する。
27年 8月	・ 望楼を鉄骨造りに改築、本部庁舎西側に設置する。(高さ21㍍)
29年 3月	・ 小山町と大谷村が合併し小山市となる。(人口32,192人)
4月	・ 本部職員16名、団員 718名となる。
30年 4月	・ 本部職員19名に増強、消防団の組織編成を見直し、団員を 294名に減員改定する。
5月	・ 普通ポンプ自動車(ニッサン 54 年型)購入本部へ配備する。 ・ 水そう車(トヨタ 50年型、積載水4,300ℓ)に可搬式ポンプを搭載、水そう車兼ポンプ車として配備する。
12月	・ 小山市に隣接の穂積村外城地区を編入する。(人口 275人)
32年 4月	・ 本部職員20名に増強する。
33年 4月	・ 本部職員23名に増強する。
34年 4月	・ 指令車(プリンス 56 年型乗用車)購入配備する。
5月	・ 小山地区危険物保安協会設立発足する。
10月	・ 救急業務を開始する。
35年 4月	・ 本部職員26名に増強する。
36年 10月	・ 消防無線運用開始する。(基地局 1. 移動局 1. 中短波2,120 KHz. 3ワット)
37年 4月	・ 本部職員28名に増強する。
38年 4月	・ 小山市と隣接の間々田町、美田村が合併する。(人口71,286人) ・ 市役所間々田支所内に仮間々田分遣所を設置し、職員4名を配置する。 ・ 本部職員48名に増強する。
12月	・ 間々田分遣所開庁(大字間々田 925番地)職員9名配置する。
39年 2月	・ 水そう付消防ポンプ自動車(イヌゞ TXG-20・64年型)配備する。
5月	・ 作業車(ダットサン・バン V320・63 年型)配備する。 ・ ダイヤル自動化により火災専用電話(119)設置する。 ・ 消防専用電話(消防署～間々田分遣所及び市役所豊田支所間)設置する。
40年 4月	・ 本部職員51名に増強する。
9月	・ 小山市と隣接の桑絹町が合併する。(人口90,632人)

年 月	記 事
昭和40年11月	・消防無線周波数変更する。(152.77 MHz F3 基地局 5ワット,移動局10ワット)
41年 1月	・救急車(トヨタ FS45V 41年型)配備する。
3月	・化学消防ポンプ自動車(イスゞ TX50 41年型)配備する。
4月	・本部職員59名に増強する。
7月	・広報車(ニッサン セトリック バン YP31)配備する。
42年 4月	・本部職員66名に増強する。
8月	・予防査察車(トヨタ ットパブリカ VP16) 危険物保安協会より寄贈を受け配備する。
11月	・消防本部庁舎開庁(神鳥谷934. RC造3階建延べ 1,174.82㎡)
12月	・普通消防ポンプ自動車(ニッサン パトロール FG60)配備する。
43年 4月	・本部職員71名に増強する。
5月	・普通消防ポンプ自動車(ニッサン ジェニア)損害保険協会より寄贈を受け配備する。
6月	・ホース乾燥塔設置及び非常用発電機配備する。
11月	・下河辺 弘毅氏消防長退任、代行に寺山 満氏就任する。
12月	・水そう付消防ポンプ自動車(イスゞ TXG-10・43年型)配備する。
44年 4月	・本部職員73名に増強する。
	・消防長に山中 泰輔氏就任(市長が兼務)する。
6月	・市人口 100,000人を超える。
	・指令車(ニッサン セトリック) 配備する。
8月	・水難救助消防艇の搭載用トレーラー萬自動車(株)より寄贈を受け配備する。
45年 4月	・石渡 恒太郎氏消防長に就任する。
	・本部職員76名に増強する。(市人口 103,153人)
9月	・救急車(トヨタ FS55 V44年型)小山ロータリークラブより寄贈を受け配備する。
12月	・救急車(ニッサン エコ-45・ FHN60)農業組合連合会より寄贈を受け配備する。
46年 4月	・本部職員79名に増強する。
5月	・広報作業車(トヨタ 46PS66 V46) 配備する。
7月	・アクアラング隊発足(隊員11名) 水難救助の体制強化を図る。
47年 4月	・桑分遣所開庁(大字羽川 139番地) 職員11名配置する。
5月	・小山市防火管理協会設立発足する。
12月	・消防無線市町村波運用開始(152.77 MHz F3) する。
48年 4月	・本部職員86名に増強する。
	・豊田分遣所開庁(大字松沼 467番地 1)職員11名配置する。
	・間々田分遣所救急業務を開始する。
	・水そう付消防ポンプ自動車(トヨタ100)桑分遣所へ配備する。
7月	・消防救急指令装置(NEC FD301)導入、通信係8名を配置し、専従とする。
	・望楼による監視を廃止した。
11月	・救助隊発足する。(隊員 10名)
49年 1月	・はしご付消防ポンプ自動車(日野TC34、森田製)配備する。

年 月	記 事
昭和49年 4月	・本部職員 113名に増強する。
10月	・指揮車(トヨタ FJ40)小山ロータリークラブより寄贈を受け配備する。
11月	・水そう付消防ポンプ自動車(日野 KL300) 豊田分遣所へ配備する。
50年 12月	・ライトバン(トヨタ N56 V45) 小山西病院より寄贈を受け配備する。 ・水そう付消防ポンプ自動車(日野 KP321) 消防署へ配備する。
51年 2月	・救急車(トヨタ HP・H19V) 栃木県共済農業連合会より寄贈を受け配備する。
4月	・市人口 120,000人及び世帯数30,000世帯を超える。 ・本部職員 114名に増強する。 ・桑分遣所救急業務開始、新たに救急車(ニッサン HG20)改日本損害保険協会より寄贈を受け配備する。
52年 4月	・山中 秀夫氏消防長に就任する。本部職員 124名に増強する。
7月	・指令車(ニッサン グロリア C331)配備する。
	・水そう付消防ポンプ自動車(イスゞ FBR 370)間々田分遣所へ配備する。
12月	・救急業務開始以来の救急出場延べ20,000件を突破する。 (延べ搬送人員22,282人)
53年 4月	・本部職員 126名に増強する。
54年 4月	・分遣所を分署と改称する。本部職員 131名に増強する。
5月	・新聞々田分署開庁(乙女1番地3、RC造2階建、延べ 669.62㎡)
55年 4月	・消防本部及び消防署の機構改革を実施、通信指令課を新設、警防課を廃止する。
56年 4月	・本部職員 134名に増強する。
8月	・庁舎屋上の望楼を耐震上の理由により取り壊す。(高さ35m)
10月	・栃木県救急医療情報システム端末機設置運用開始する。
57年 12月	・普通消防ポンプ自動車(ニッサン M-FG161)更新配備する。 ・栃木県防災行政無線設置運用開始する。
58年 2月	・化学消防ポンプ自動車(イスゞ K-FDR370 改) 更新配備する。 ・消防無線基地局(第1装置 県波、第2装置 市波)増設する。
4月	・本部職員 137名に増強する。
11月	・大谷分署開庁(大字犬塚 312-1、RC造2階建、延べ 671.29㎡) 職員17名配置し、消防ポンプ自動車、救急車各1台配備する。
12月	・水そう付消防ポンプ自動車(日野 K-FF173AA 改) 大谷分署へ配備する。
59年 1月	・普通消防ポンプ自動車(イスゞ P-TLD46改) 配備する。 ・救急車(ニッサン L-FHGE23) 日産自動車(株)より寄贈を受け配備する。
4月	・本部職員 146名に増強する。 ・佐藤 正男氏消防長に就任する。
6月	・査察広報車(スゞキ M-SS40V) 小山北ライオンズクラブより寄贈を受け桑分署へ配備する。

年 月	記 事
昭和59年10月	<ul style="list-style-type: none"> ・査察広報車 間々田、豊田分署へ各1台配備する。 ・査察車(ニッサン L-VR11カ) 小山思水ライオンズクラブより寄贈を受け本部予防課へ配備する。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・小山市婦人防火クラブ連合会が設立発足する。
60年 4月	<ul style="list-style-type: none"> ・野木町より消防事務を受託し、野木分署開庁(野木町大字丸林149、RC造2階建、延べ682.12㎡) 職員13名を配置し、水そう付消防ポンプ自動車(イヌゞ P-FTR12H 改)救急車(ニッサン L-EHG23) 配備する。 ・管内人口 151,365人、世帯数 42,053 世帯となる。 ・本部職員 153名に増強する。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・水そう付消防ポンプ自動車(日野 P-GD172) 間々田分署へ更新配備する。
61年 1月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防情報テレホンサービス(0285-23-2626)を開始する。(20回線)
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・救急車(トヨタ L-YH71VB) 大谷分署へ更新配備する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・新桑分署開庁(大字羽川 139-2、RC造2階建 延床面積 502㎡)
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・本部職員 156名に増強する。 ・星野 善一氏消防長に就任する。
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・指令車(トヨタ クラウン GS120) 更新配備する。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・防火号(ニッサン キャラバン)日本防火協会より寄贈を受け予防課へ配備する。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・普通ポンプ車(トヨタ ナーゼ)野木分署へ増強配備する。
62年 1月	<ul style="list-style-type: none"> ・水そう付消防ポンプ自動車(イヌゞ -P-FSR12FAVカ) 消防署へ更新配備する。 ・救急車(トヨタ L-YH71VB) 桑分署へ更新配備する。
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防救急指令装置(HA-105・(株)富士通)更新配備する。
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・本部職員 160名に増強する。
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・乗用車(トヨタ クラウン ES-120)総務課へ配備する。
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・水難救助艇(ヤマハ W-160FR) 消防署へ配備する。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・衛星通信経由119番設置運用開始する。
63年 1月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防無線基地局(第三装置、救急波)増設する。
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・水そう付消防ポンプ自動車(三菱 P-FK416F2改) 桑分署へ更新配備する。
4月	<ul style="list-style-type: none"> 池田 幸三氏消防長に就任する。
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・新豊田分署開庁(大字立木 711-1、RC造2階建、延べ面積580.21 ㎡、職員17名) ・救急車(ニッサン L-FHGE24 改)日本損害保険協会より寄贈を受け豊田分署へ配備する。
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・水そう付消防ポンプ自動車(日野P-FD172BA カ) 日本損害保険協会より寄贈を受け豊田分署へ配備する。 ・連絡広報車(イヌゞ Q-JT600カ)小山ロータリークラブより寄贈を受け大谷分署へ配備する。 ・水難救助艇(ヤマハ W-16EH)間々田分署へ配備する。

年 月	記 事
昭和63年 8月	・非常用自家発電装置(ホンダ GENERATOREX 4.0KVA)設置する。
11月	・救急車(ニッサン L-FHGE24)日本消防協会より寄贈を受け間々田分署へ更新配備する。
平成元年 2月	・FAX電話(Tel 25-1132) 設置運用開始する。
3月	・救助工作車(日野 P-GD172BA カイ)消防署に配備する。
5月	・消防情報テレホンサービスの回線数を30回線へ増設する。
8月	・救助艇、船外機を大谷分署及び桑分署へ配備する。
9月	・総合自動気象観測装置を通信指令課へ設置する。
10月	・消防無線周波数(市町村波 154.07 MHz)変更運用開始する。
11月	・指揮車(トヨタ ラント [®] クルザ [®] - M-FJ62V カイ)更新配備する。
2年 2月	・小型動力ポンプ付水槽車(積載水 10000ℓ. 三菱P-FT413Nカイ)消防署へ配備する。
4月	・本部職員を 161名に増強する。
11月	・広報車(トヨタ E-YR 20G改)更新配備する。
3年 1月	・救急車(トヨタ T-RZH133 S改)更新配備する。
2月	・地図検索装置(パナソニック 7000 MK 2)及び、指令装置端末機を設置する。
3月	・水そう付消防ポンプ自動車(三菱V-FK417F2W改)豊田分署へ更新配備する。
4月	・本部職員 162名に増強する。
10月	・自動車電話、ファックス各1台を消防署指揮車へ新規配備する。 ・救急医療情報システム端末機(NTT. BS21 model32E)更新する。
4年 2月	・化学消防ポンプ自動車(水槽2000ℓ.薬槽500ℓ) 間々田分署へ更新配備する。
4月	・本部職員 166名に増強する。
6月	・査察2号車(ライトバン) 予防課へ更新配備する。
5年 4月	・柏崎 義雄氏消防長に就任する。 ・本部職員を 176名に増強する。(消防職員の条例定数190名) ・査察広報車(三菱 V-H22V 改)桑分署へ更新配備する。 ・消防団緊急伝達システム一式(サイレン装置、スピーカ装置、録音装置)を分団車庫(15カ所)に新規配備する。
12月	・救急車(ニッサン E-FGE 24) 大谷分署へ更新配備する。
6年 4月	・小林 昭吾氏消防長に就任する。 ・本部職員 184名に増強する。
9月	・査察広報車(トヨタ V-KV 改) 間々田分署、豊田分署へ更新配備する。
7年 2月	・救急車(トヨタ T-RZH 133 S) 野木分署へ更新配備する。 ・査察1号車(ニッサン GA-VAJC 23 改) 予防課へ更新配備する。
3月	・化学消防ポンプ自動車(水槽 2500ℓ・薬槽500ℓ)大谷分署へ更新配備する。
4月	・本部職員 185名に増強する。
7月	・総務1号車(トヨタ E-ST190改)日本消防協会より寄贈を受け総務課へ配備。
10月	・40m四輪操舵はしご車(モリタ MH5)本署へ更新配備する。

年 月	記 事
平成8年 3月	・高規格救急自動車(トヨタ GB-UZH138S)本署へ更新配備する。 ・査察広報車(ニッサン GA-VAJC23)野木分署へ更新配備する。
4月	・本部職員 186名に増強する。
9年 2月	・消防無線全国共通波の基地局増設及び移動局14車両に増設整備する。 (全国共通波3波、150.73MHz,148.75MHz,154.15MHz)
4月	・本部職員 186名
10年 2月	・化学消防ポンプ自動車(水そう2000ℓ・薬そう800ℓ)本署へ更新配備する。 ・消防団緊急情報伝達システムの子局を分団車庫(3カ所)増設配備する。
4月	・山中 九市氏消防長に就任する。 ・本部職員 188名に増強する。
8月	・指令1号車(ニッサン E-Y31 改)本部へ更新配備する。 ・査察広報車(スズキ V-DE51V)大谷分署へ更新配備する。
11月	・消防団緊急情報伝達システムの子局を分団車庫(3カ所)増設配備する。
12月	・普通ポンプ車(三菱 KC-FE538B 改)間々田分署へ更新配備する。
11年 3月	・高規格救急自動車(トヨタ GB-VCH32 S)間々田分署へ更新配備する。 ・消防団緊急伝達システムの子局を分団車庫(3カ所)増設配備する。
4月	・本部職員 186名
8月	・普通ポンプ車(三菱 KK-FE53EB 改)桑分署へ更新配備する。
9月	・乗用車(ニッサン セトリック GF-Y31)本部へ更新配備する。
11月	・消防緊急指令システムを更新整備する。
12年 3月	・救急車(トヨタ GE-VCH22 S)豊田分署へ更新配備する。 ・消防団緊急情報伝達システムの子局を分団車庫(3カ所)増設配備する。
4月	・大塚 克己氏消防長に就任する。 ・本部職員 189名に増強する。
13年 1月	・高規格救急自動車(ニッサン GE-FLGE50)大谷分署へ更新配備する。 ・資機材搬送車(ニッサン KK-APR72PV)本署へ更新配備する。
2月	・水そう付消防ポンプ自動車(三菱KL-FP50KH改)野木分署へ更新配備する。
3月	・消防団緊急情報伝達システムの子局を分団車庫(3カ所)増設配備する。 ・小山市自主防災会連絡協議会設立する。
4月	・本部職員 189名
12月	・水そう付消防ポンプ自動車(日野KK GD1JGDA改)間々田分署へ更新配備する。
14年 4月	・関和 貞雄氏消防長に就任する。 ・本部職員 189名
12月	・高規格救急自動車(トヨタ TC-VCH38S)桑分署へ更新配備する。 ・普通ポンプ車(イスタ KR-NKR81GN 改)野木分署へ更新配備する。 ・救急資器材滅菌消毒室、大谷分署に新設する。 (軽量鉄骨プレハブ造平屋建 延べ面積33.12㎡)

年 月	記 事
平成15年 1月	・水そう付消防ポンプ自動車(イスゞ KK-FSR33G4V改)大谷分署へ更新配備する。
2月	・地図等検索装置バクトルデータ化に更新する。
4月	・本部職員 188名
11月	・消防情報テレホンサービスをテレドームに変更(0180-992-190) ・査察2号車(トヨタ UA-ACR30W)予防課へ更新配備する。
12月	・高規格救急自動車(ニッサン TC-FPWGE50改)消防署へ更新配備する。 ・自家発電設備更新する。(20KVA)
16年 1月	・水そう付消防ポンプ自動車(イスゞ KK-FSR33G4V)消防署へ更新配備する。
3月	・救助工作車Ⅲ型(イスゞ KL-FTS34H4)消防署へ更新配備する。
4月	・綾部 照夫氏消防長に就任する。 ・本部職員 188名 ・緊急消防援助隊の登録(救急隊・救助隊・消火隊・指揮隊・後方支援隊)
12月	・高規格救急自動車(ニッサン TC-FPWGE50改)野木分署へ更新配備する。 ・非常用救急自動車(トヨタ T-RZH133S)配備、運用開始する。
17年 3月	・水そう付消防ポンプ自動車(イスゞ PB-FSR35G3V)豊田分署へ更新配備する。
4月	・本部職員 189名 ・緊急消防援助隊の登録(前年度登録した消火隊に1隊を追加登録、計6隊)
10月	・救急資器材滅菌消毒室、間々田分署に新設する。 (軽量鉄骨プレハブ造平屋建 延べ面積27㎡)
18年 2月	・指揮1号車(トヨタ CBF-TRH226K)消防署へ更新配備する。
4月	・山崎 仁氏消防長に就任する。 ・本部職員 190名
12月	・空気呼吸器用空気充填機 MARINER-Ⅱに更新する。
19年 1月	・水そう付消防ポンプ自動車(日野ADG-GX7JGWA改)桑分署へ更新配備する。
2月	・消防気象観測システム装置を通信指令課へ更新設置する。
4月	・本部職員 190名 ・消防本部及び消防署の組織改編を実施、通信指令課へ警防係及び予防課へ調査係を新設する。 ・小山市自主防災会連絡協議会事務局を小山市役所総務部行政経営課から、消防本部総務課へ移管となる。
20年 2月	・化学消防ポンプ自動車(日野BDG-GD7JGWA改)間々田分署へ更新配備する。
3月	・高規格救急自動車(ニッサンABF-FPWGE50改)間々田分署へ更新配備する。
4月	・本部職員 188名
21年 2月	・高規格救急自動車(ニッサンCBF-FPWGE50改)豊田分署へ更新配備する。
3月	・小山市消防庁舎建設移転基本計画を策定する。 移転地は小山市大字神鳥谷1699-1となる。
4月	・植野 正二氏消防長に就任する。

年 月	記 事
平成21年4月	・本部職員 188名
8月	・小型動力ポンプ付水槽車(三菱P-FT413N改)のポンプを更新する。
10月	・通信指令システム制御指令装置を更新する。
12月	・高規格救急自動車(トヨタCBF-TRH226S)大谷分署へ更新配備する。
22年 4月	・宇賀 静男氏消防長に就任する。
	・本部職員 188名
9月	・携帯電話IP電話簡易型位置情報受信装置を通信指令課へ設置する。
23年 3月	・軽可搬消防ポンプ一式(ラビット P265M)小山東ロータリークラブより寄贈を受け消防団へ配備する。
4月	・本部職員 190名
11月	・高規格救急自動車(トヨタCBF-TRH226S)消防署へ更新配備する。
24年 3月	・化学消防ポンプ自動車(日野SDG-GX7JGAA改)大谷分署へ更新配備する。
	・新消防庁舎の建設に着手する。
4月	・本部職員 193名
	・消防本部及び消防署の組織改編を実施、防災対策課を新設、通信指令課警防係を廃止する。
	・島野 利治氏危機管理監に就任する。
9月	・避難所49箇所及び各出張所11箇所へ発電機を配備する。
25年 3月	・第1期拡声器付災害情報伝達システム(基地局:消防本部、子局:生井地区9基)を新規配備する。
4月	・本部職員 198名
5月	・新消防庁舎、竣工する。
	大字神鳥谷1700番地2、敷地面積 6,066.95㎡
	消防庁舎 S造3階建、延べ面積 3,743.77㎡
	二次出動車庫 S造平屋建、延べ面積 248.52㎡
	主訓練塔 RC造3階建、延べ面積 192.00㎡
	補助訓練塔1 RC造4階建、延べ面積 370.30㎡
	補助訓練塔2 RC造3階建、延べ面積 72.00㎡
9月	・新消防庁舎に移転、業務を開始する。
	・高機能消防指令センターの運用を開始する。
	・デジタル無線救急波の運用を開始する。
	・消防バイク、救急バイク(ヤマハG370E)消防署へ配備する。
	・高規格救急自動車(トヨタCBF-TRH226S)桑分署へ更新配備する。
10月	・新消防庁舎の開庁式を執り行う。
11月	・査察広報車(ホンダ DBA-RK1)野木分署へ更新配備する。
26年 2月	・防災広報車(ニッサンDBA-M20)日本消防協会より寄贈を受け防災対策課へ配備する。

年 月	記 事
平成26年4月	<ul style="list-style-type: none"> ・塚原 信明氏消防長に就任する。 ・安田 好利氏危機管理監に就任する。 ・再任用短時間雇用職員制度を導入する。 ・本部職員 199名
26年 7月	<ul style="list-style-type: none"> ・第2期拡声器付災害情報伝達システム(子局:寒川・中地区13基)を新規配備する。
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・高規格救急自動車(トヨタCBF-TRH226S)野木分署へ更新配備する。 ・高規格救急自動車(トヨタCBF-TRH226S)消防署へ更新配備する。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・第3期拡声器付災害情報伝達システム(子局:穂積地区・思川西側の小山地区11基)を新規配備する。
27年 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・救助資器材搭載型消防ポンプ自動車(いすゞTDG-NMS85AN)総務省消防庁から無償貸付を受け消防団へ配備する。
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・小谷野 祐司氏危機管理監に就任する。 ・本部職員 209名 ・女性職員採用 2名 ・機能別消防団員(小山市職員)を設立する。 ・条例定数225名となり、消防長階級を消防正監とする。
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・第22回全国女性消防操法大会に「おやまファイアーレディース(小山市女性消防隊)」が栃木県代表として出場、準優勝となる。 ・高規格救急自動車(トヨタCBF-TRH226S)間々田分署へ更新配備する。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・予防査察車(三菱DBA-CV5W)日本消防協会より寄贈を受け予防課へ配備する。
28年 1月	<ul style="list-style-type: none"> ・絹分遣所、竣工する。(大字福良1105-1、S造平屋建、延べ面積643.02㎡)
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・水そう付消防ポンプ自動車(日野SDG-GX7JGAA改)及び高規格救急自動車(トヨタCBF-TRH226S)を絹分遣所に配備する。 ・水そう付消防ポンプ自動車(日野SDG-GD7JGAA改)野木分署へ更新配備する。
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・絹分遣所、開所する。(職員数13名)
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・片岡 三夫氏危機管理監に就任する。 ・消防本部及び消防署の組織改編を実施、総務課に消防団担当、消防署に消防・救急業務推進担当を新設、予防課調査係を廃止する。 ・本部職員 213名 ・女性職員採用1名(計3名)
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練の被災地として想定、図上・実働及び宿営訓練会場として実施する。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・多言語通訳サービス(外国語による通報対応)を導入する。
29年 4月	<ul style="list-style-type: none"> ・消防本部及び消防署の組織改編を実施、総務課の消防団担当を消防団係、防災対策課を危機管理課、防災対策課の防災対策係を危機管理課危機管理係、危機管理課防災企画係を新設、消防署の消防・救急業務推進担当を消防・救急業務推進係に改編する。

年 月	記 事
平成29年 4月	・女性職員採用2名(計5名) ・機能別消防団員(大学生、OB、事業所)を設立する。
30年 4月	・猪瀬 治雄氏消防長に就任する。 ・本部職員 217名 ・女性職員採用2名(計7名)
10月	・高規格救急自動車(トヨタCBF-TRH226S)豊田分署へ更新配備する。
12月	・査察広報車(ニッサンHBD-DR17V)小山地区危険物保安協会、小山市防火管理協会より寄贈を受け、桑分署へ配備する。
31年 4月	・本部職員 218名
令和元年10月	・高規格救急自動車(トヨタCBF-TRH226S)大谷分署へ更新配備する。 ・NET119緊急通報システム(聴覚障がい者等からの通報対応)の運用を開始する。
2年 4月	・永山 武志氏危機管理監に就任する。 ・本部職員 217名
7月	・排水ポンプ車(日野2DG-FD2ABA)2台消防署へ配備する。
10月	・高規格救急自動車(トヨタ3BF-TRH226S)消防署へ更新配備する。
12月	・資機材搬送車(日野2PG-XZU712M)消防署へ配備する。
3年 4月	・町田 哲男氏危機管理監に就任する。 ・総務課の組織名称を消防総務課に改める。 ・本部職員 219名
5月	・市役所新庁舎竣工する。 ・危機管理課を消防本部庁舎2階から市役所新庁舎6階へ移転する。
4年 2月	・小型動力ポンプ付水槽車(日野2PG-FQ1AJG改)消防署へ更新配備する。
4月	・諏訪 良作氏消防長に就任する。 ・本部職員 222名
11月	・防災ドローン2機消防署へ配備する。
5年 2月	・水槽付消防ポンプ自動車(日野2KG-GX2ABA)消防署へ配備する。
3月	・特別消火隊が発足する。
4月	・消防本部及び消防署の組織改編を実施、通信指令課を警防課、警防課に警防係、消防署に指揮調査係を新設、消防署消防・救急業務推進係を廃止、危機管理課が総務部に移管となる。 ・本部職員 217名